

主 題：教会が教会であるために4

聖書箇所：ペテロの手紙第一 5章10－11節

神に喜ばれる教会を目指して行く、それはどの時代であっても私たちが願うことです。ペテロはもうすでに私たちに大切な七つのことを教えてくれました。それは、

- A. 長老たち（神のみことばを教える者たち）に対して（1－4節）＝
神の羊を養って行くように、みことばを正しく伝えて養うように。
- B. 若者たちに対して（5節）＝
長老たち、霊的なリーダーに従って行くこと。
- C. すべての人たちに対して（5節）＝
謙遜を身に着けなさい、教会の人たちは互いに謙遜であるように、人を自分より勝っていると考え、自分の利益より人に仕える機会を追い求めて行きなさい。
- D. すべての人たちに対して（6－7節）＝
神に対してへりくだりなさい、神に対して謙虚であること、おごり高ぶるあなたはいったい何者なのかと問われます。自分を正しく知るとき神の前にへりくだって行きます。
- E. すべての人たちに対して（8節）＝
身を慎みなさい、人を惑わせるものがたくさん出てくるから、正しい判断力をもって選択をするように。この世の考え、価値観、生き方に流されることなく、常に神の前に喜ばれること、正しいことは何かを考えて判断して行くように。
- F. すべての人たちに対して（8節）＝
目を覚ましていなさい、油断なく注意するように、罪の誘惑に対して注意するように、私たちが誘惑する敵の存在が明らかだから。
- G. すべての人たちに対して（9節）＝
立ち向かいなさい、私たちは敗北者ではない、確かに敵は私たちの力ではどうすることもできない存在であっても、私たちは勝利者である主につくことによって勝利できる。誘惑に打ち勝つことができるのは神に対する信頼である。

私たち信仰者は勝利ある生活を送ることができます。サタンの様々な惑わしに対して、私たちは神のみことばに立ち、そのみことばが教える約束に信頼を置くことができます。そして、クリスチャン同志が励まし合いながら、主を見上げて進んで行くことができます。そして、私たちは勝利を得ることができるのだとペテロはこれらのみことばから私たちに教えてくれたのです。

信仰の先輩たちはそのような生き方をして来ました。様々な試練と困難、迫害の中にあっても主に対して忠実に歩み続けたのです。確かに、彼らのその生き方を見たとき私たちが思うことは、彼らは信仰が立派だったからそのような歩みができたのであって、願わくば私にはそのような試練も困難も必要ありません、そのようなことが私の人生には訪れませんように、神さまがあわれみ深いお方なら私にそのようなものをもたらさないようにと望むのが多くのクリスチャンではないでしょうか？しかし、ペテロ、パウロ、信仰の勇者たちはそのようなには思っていませんでした。彼らはどのような状況にあっても忠実に歩み続けました。試練の中にあっても喜んで感謝をもって生きて行くことができたのです。彼らは私たちと何が違うのでしょうか？その答えが今日の箇所にあるのです。

5：10に「**あらゆる恵みに満ちた神、**」とあります。試練をできるだけ遠ざけようとする私たちと彼らの違い、それは彼らは神がどのようなお方かを正しく知っていたことです。ペテロは言います。「私の信じている神はあらゆる恵みにあふれたお方である」と。このように神を正しく知ることによって私たちは、試練や困難の中にあってもペテロたちと同じように喜び感謝できる者となるのです。私たちの神がどのようなお方かを知ることによって、試練を正しく理解することになります。そして、どのように勝利して行くのか、その秘訣をしっかりと正しく理解するのです。今日はこの5：10、11を通して、神の恵みがもたらす祝福を見て行きます。

☆神の恵みがもたらす三つの祝福

ペテロは私たちも経験する様々な試練、困難は神から私たちへのすばらしい贈り物＝恵み＝であると考え、そのように教えています。「恵み」を神学者はこのように定義します。「全く功績のない者に対する神の愛顧である。神は人々をその価値に従って扱わず、彼らの功罪に触れることなしに、無限の慈愛をもって取り扱われる。」と。もう少し簡単に言うなら「神の敵として逆らう私に最もふさわしいのろい

ではなくて、祝福という最もふさわしくないものを与えてくださる神のご慈愛」です。私たちは誰しも例外なく神に逆らって生きてきたため、私たちにふさわしいのは神ののろいでありさばきです。しかし、神はその代わりに私たちにふさわしくない祝福を与えようとされたのです。これが恵みだと言います。そして、神は私たちを愛するがゆえに、この恵みを与え続けてくださるのです。どのような恵みでしょう。10、11節から三つの恵みを教えてください。

1. 救い 10節

「あなたがたをキリストにあつてその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、」、「招き入れて」とありますが、これは神ご自身の働きを教えています。神がご自身の意志でもって人々をこのすばらしい永遠の祝福の中に招き入れようとされた、というのです。私たち人間の価値であるとか、業績であるとか、学歴、資産などに全く関係なく、救いへと人々を召してくださったのです。私たちクリスチャンは救われたことを感謝する者ですが、私たちがしっかり覚えるべきことは、私たちのうちのどこにもこの恵み、救いに与る良い点は全くないということです。恵みを与えられる資格はないのです。私たちにふさわしいのはのろいだったのです。その証拠に私たちの心は余りにも罪に汚れたもので、きよい神の前には到底立てない者です。それでも神はのろいではなくて、すばらしい救いを備えてくださったのです。そして、備えただけでなく、神ご自身がその救いの中に招いてくださったのです。神が救いの決心に到らせてくださり、救いに招き入れてくださった、そのようなわざを私たちに為されたのです。神によって新しく生まれ変わられ、新しい目標＝永遠の栄光の中に入れられる＝が与えられたのです。ですから、クリスチャンはその神の恵みをもっと感謝するはずで、神は恵みのゆえに私たちを救いへと招き入れてくださったのです。なぜ、神は私たちをこの栄光の中へ招き入れてくださったのでしょうか？目的があるのです。

1) すばらしい救いを宣べ伝えるため

Ⅰペテロ2：9に「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」とあります。このすばらしい恵みの神を宣べ伝えるためだと言います。

2) 神に仕えて行くため

奉仕のためです。というのは、私たちが救いへと召されたそのときに神は私たちのうちに霊的賜物を与えてくださいました。ローマ12：6を見ると、「**私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、**」とあります。救われた私たちに神がくださった特別な賜物です。そして、それを用いることです。続いて「**もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。**」とあるように、どのような賜物であっても神が与えてくださったその賜物を用いるのです。それを用いることによって互いに仕え合って行くのです。クリスチャンは皆が働き人です。ですから、常に「私をあなたのご用のために使ってください」との態度をもって主に仕えて行くことです。しかし、私たちは自分には時間がないからとか、このような条件が整ったらいと言い訳をし、サタンの偽りに嵌ってしまいます。神がいわれていることを自分の力でしようとすることに問題があるのです。これはペテロが繰り返し教えていることです。私たちが神から与えられた賜物を用いて主に仕えて行かないなら、私たちの周りの人たちは祝福をいただくことがないし、教会全体にも神の祝福はないのです。問題はクリスチャンが傍観者になってしまうことです。そこには、そのクリスチャンの信仰は成長しないし、喜びも感謝もなくなって行きます。救われた私たちの責任は与えられた賜物を用いて人々に仕えて行くことです。そのときに、神が私を用いてくださっていることに気付くのです。そうでなければ、私たちはこの地上の人生を終わったときに後悔を残します。なぜ、もっと主に仕えなかったのか…と。神はチャンスをくださっていることに心を留めるべきです。

2. 試練 10節

「あなたがたをしばらくの苦しみのあとで」と記されています。信仰の歩みにおいてこの「試練」はつきものです。試練の只中にいると、私たちはこれはいったいいつまで続くのだろうということです。先が見えなくなってそれがずっと続くように思います。けれど、ペテロは「しばらくの苦しみ」と言います。神の祝福は永遠ですが、私たちが地上で苦しむ試練は「しばらく」なのです。ペテロもパウロも様々な試練に遭遇しましたが、彼らは「今」を見ていたのではありません。先を見ていたのです。永遠を見てそこに希望を置いたのです。この試練はまもなく終わる、そのあとに私を迎えてくれるのは永遠の祝福だと。パウロはⅡコリント4：17でこう言います。「**今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。**」、今の患難とのちの祝福を比較しています。彼自身が経験していた苦しみは今の時であり軽いものだと、のちの祝福は永遠であり重いものだと言うのです。

ペテロは試練が一時的であることを教えるとともに、試練の目的について次に教えて行きます。なぜ、

試練があるのか、なぜ苦しみがあるのか、問題があるのかです。ペテロはここで四つの動詞を用いて、試練が神の恵みであることを教えようとします。試練を正しく受け取る人にすばらしい祝福をもたらすのです。

試練の目的

1) 信仰を成長させる 10節

「完全にし、」とあります。「完全にする」とは破れているものを繕うという意味があります。イエスの弟子たちが破れた網を繕っていたという記事がありますが、そのことです。整える、直す、備える、直す、完全にする、そのような意味をもったことばです。また、欠けているところや足りないところを満たす力、欠陥や誤ったところを改善する力、折れた骨を固定して直す、壊れた花瓶を修理するといった意味をもっています。つまり、ペテロは神はその働きのために奉仕者を訓練して行くのだということを言っているのです。彼らがよりすばらしい奉仕者に、よりすばらしい信仰者にならなければならないために神が働かれるのです。ヘブル人への手紙にはこのようにあります。13：20、21「永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、：21 イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行ない、あなたがたがみこころを行なうことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。」と、ここでも「完全な者」とペテロがいう「完全にし」と同じことばが使われています。つまり、神は私たちに何を行なおうとしておられるのかということ、私たちが神のみこころに常に忠実な者となるようにと働きをなしておられるということです。その実践のために必要なものを神は与え、私たちを修理したり修復して「完全な者」にして行こうとしてくださるのです。私たちがもっと神にとって役に立つ者となるために働きを為して私たちを備え、整えてくださるのです。そのひとつとして神が用いられるのが試練だということです。

ヤコブも試練が成長を助けるものであるとこのように教えています。1：2－4「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。：3 信仰がためされると忍耐が生じるということ、あなたがたは知っているからです。：4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」。私たちの信仰の成長のためには試練が必要なのです。ルカの福音書を見ましょう。22：31－34、晩餐のとき、イエスはペテロに大切なことを言われます。「シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。：32 しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」：33 シモンはイエスに言った。「主よ。ごいっしょになら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」：34 しかし、イエスは言われた。「ペテロ。あなたに言いますが、きょう鶏が鳴くまでに、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」、ここには非常に大切なことが教えられています。31節に「あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。」とあります。「ふるいにかける」というのは麦をふるいにかけて麦ともみがらを分けます。必要なものとそうでないものとが分けられるのです。これから起こる様々な試練のことをイエスは言われたのです。非常に厳しい試練が訪れることを言うのです。この試練はペテロだけでなく弟子たち全員に訪れると言います。だから「あなたがたを」と複数形で言っているのです。しかも、サタンがそのことを望んだのです。そして神が許可を与えました。32節には「あなたの信仰が」と今度は単数形になっています。ペテロに対してイエスは言われるのです。「あなたの信仰がなくならないように」と。これは救いを失うということではありません。救いは永遠に失うものではありません。その信仰が弱る、衰えるということを言っています。そのようなことがないようにわたしは祈ると言われたのです。この箇所を見ると、ペテロが自信過剰であったことに気がきます。「牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」と。私たちが注意すべきことは、人は大丈夫と確信しているときが一番危険だということです。そのときサタンが攻撃してきます。私たちはそのとき油断するからです。自分の弱さを知っているときは神に助けを求めますが、それを忘れて自信を持ち始めると神は必要でなくなってきます。そこに誘惑がやってくるのです。ペテロはそのあと誘惑に負けてイエスを三度否定してしまいます。しかし、イエスはペテロが必ずそれに打ち勝つことを確信しておられました。だから、「わたしは、あなたの信仰がなくならないようにあなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」とそのあとのことまで言われたのです。立ち直った後ペテロはエルサレム教会のリーダーとなります。ペテロにとって試練は彼自身の信仰の成長のために必要であったし、また、この試練を通して彼は自分と同じように苦しんでいる人を慰め、励ましを与える者として用いられて行くのです。私たちの群にあって同じです。多くの方々が悲しみ、苦しみ経験されましたが、その人たちは試練の中にいる人たちを励まし、慰めて行くことができるのです。試練を経験しない者には頭で理解してもその痛みのすべてを知ることはできないからです。ペテロにはそのプライドを削り取ることが必要だったのです。サ

タンはペテロの得のためなどとは思っていません。ペテロがこの試練によって苦しみ、神を疑い神に逆らうことを望んで多くの試練を与えるのです。しかし、感謝なことに神はこのようなサタンの行為をもペテロの益のために使うのです。すごい神の力です。この祈りを見るとイエスはペテロが困難から解放されることを祈ってはおられません。それはイエスが、この試練こそペテロがよりすばらしい神の働きに用いられて行くため必要な訓練だと知っておられ、そのために備えられたものであるから、信仰が弱らないようにと祈られたのです。試練は大切なものであると言うのです。神はすべてのことを私の益のためになしてくださるお方ですから、心配することなく神に任せて行くこと、その約束をしっかり覚えて行くことです。

2) 神への信頼を成長させる 10節

信頼における成長です。10節に「**堅く立たせ、**」とあります。これは「しっかりと据え置く、堅く据える、固定させる、強める」という意味です。つまりペテロは、信仰生活においてフラフラしないようにと言うのです。そのためには、しっかりみことばに立つことです。詩篇119：133に「**あなたのみことばによって、私の歩みを確かにし、どんな罪にも私を支配させないでください。**」とあります。みことばによって私たちはどのような試練にも神の約束を信頼しようと教えるのです。

3) 行ないにおける成長をもたらす 10節

信仰をますます実践する者になって行くということです。同じ10節に「**強くし、**」とあります。力づける、力を与えるということです。パウロはⅡテサロニケ2：16－17に「**どうか、私たちの主イエス・キリストであり、私たちの父なる神である方、すなわち、私たちを愛し、恵みによって永遠の慰めとすばらしい望みとを与えてくださった方ご自身が、：17 あらゆる良いわざとことばとに進むよう、あなたがたの心を慰め、強めてくださいますように。**」と教えています。神が「**あなたがたの心を慰め、強めて**」くださるのです。神が私たちの心に働いて私たちを強めてくださるのです。それは私たちが神の前に喜ばれることを為して行くためにです。試練を通して私たちは変えられて行きます。信仰の戦いということがない環境では信仰がぐらつくことがあるでしょう。迫害というものがないからです。しかし、私たちはこの国に住んでいろいろな戦いを経験します。異教との戦い、昔からの偶像にまつわるものとの戦い、周りにクリスチャンは本当に少数ですから、孤軍奮闘しています。その中で私たちは強められてきました。様々な信仰の戦いによって私たちは鍛えられてきました。ですから、試練は私たちの行ないにまで影響を与えるのです。ペテロが言うのは、真理を理解しそれを実践する力を神は試練を通して私たちに与えていってくださるのだと言うことです。

4) 真理において成長させる 10節

「**不動の者としてくださいます。**」、確立する、土台を据える、安定するということです。誤った信仰にも惑わされることがないということです。いろいろな問題が起こったとき、私たちは人間の考えよりも神のおことばを見ます。そこに真理があるからです。サタンは私たちが真理から離れて行くようにと誘惑しますが、真理によって私たちはそれに勝利するのです。

3. 勝利 11節

神の恵み、それは救いを与えるものです。試練を与えるものです。そして、三つ目に「勝利」を与えると教えます。「**どうか、神のご支配が世々限りなくありますように、**」とペテロは、神は私たちのうちに大きな働きをなされるだけでなく、そのすべての出来事の背後に支配者なる方がおられることを私たちにもう一度教えるのです。いろいろなことが私たちの上にも、周りにも起こってきますが、神が知らないことは起こらないのです。神はすべてのことを知っておられ、それをよしとされるのです。ですから、私たちはあらゆる出来事を見て、それは私たちからときに希望を奪うかもしれないけれど、その背後にすべてを支配しておられる全能なる神がいることを見たとき、そこに希望を持つのです。神がどのようにこの出来事を用いてご自身の栄光を現わされるのか、そして、それをどのように私の益としてくださるのか、そこに期待を持つのです。ローマ5：3－4にパウロはこのように言います。「**そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、：4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。**」、いろいろな患難も私のうちにはすばらしいものをもたらすと教えているのです。私たちがより整えられた者となるために神は試練を与えられる、そして、私たちが神の恵みを覚え、神に頼ることによって変えられ成長して行き、それを通して神ご自身が栄光を現わして行かれるのです。

試練の中にあって私たちが神を見上げて希望をもって生きるなら、私たちのうちに働いておられる神のすごさ、すばらしさが人々の前に明らかになるのです。ですから、もしあなたが試練の中にあって神を見失っておられるなら神を見上げることです。どれほど恵みに満ちたあふれた神であるかを覚えることです。どのような恵みを私に与えてくださったのかを思い出すことです。そして、その試練の中で「主よ、私はあなたを信頼します。あなたが最善をなすと約束されたから」と神に信頼と期待をおいて歩ん

で行くことです。

最後に、私たちが今学んできたことをもう一度覚えるために、パウロの証を見ましょう。

Ⅱコリント 12：7－10「また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。：8 このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。：9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。：10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。」

サタンは神の許可のもとパウロに肉体的な苦しみを与えました。それが何であったかはいろいろな説がありますが、そのとき、パウロは神にそれを取り除いてくれるようにと願いました。私たちもすることです。しかし、それに対する神のお答えは「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」でした。実はサタンがもたらしたこの病には神の目的があったのです。それはパウロをへりくださせるためでした。パウロに彼自身の弱さを悟らせるためだったのです。なぜなら、先ほどから見てるように、私たちは自分が弱いと思わなければ神に頼ることをしないからです。弱さを経験することを通して行かなければ、いつの間にか、自分は大丈夫、自分は強いのだと誤解してしまうのです。そして、弱くて神の助けが必要なのに、神の助けを拒み自分の力で、自分の知恵で何でもできるとおごってしまうのです。ですから、神はパウロに彼の弱さを悟らせようと病を与え、そして、どんなときにも神に頼ることの必要性を教えたのです。それがレッスンでした。その目的のためにパウロにこの試練を与え彼は学びました。だから7節に「高ぶることのないように」と言いました。いつも神の前に正しく歩んで行くために神が私に与えられたのだと言います。

神は私たちにも言われます。「わたしの恵みは、あなたに十分である。」と。あなたが試練の中でも喜んでそれに勝利して行くために必要なものは、もう全部備えてあると言うのです。「ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。」とパウロは自分の弱さを感謝しました。ペテロが教えることと同じです。私たちは自分の弱さをしっかり覚えること、そして、神に頼って生きることです。そのときに、たとえ試練がなくなっても、病がなくなっても、それらに左右されることのない喜びをもって、勝利者として生きて行けるのです。試練はひとときのものです。そののちには永遠の栄光が待っているのです。試練は救いととも神の恵みです。すばらしい神の特別の贈り物です。しかも、私たちの益のために神が備えてくださったものです。私たちに必要なことは、どんなときにも神に、神のみことばに信頼をおいて歩み続けることです。そのときに、すべてのことをなしておられる、また、なしてくださった神の偉大さが明らかにされ、神の栄光が現わされて行くのです。しっかり主を見上げてこの週もそれぞれのところで主に用いていただきましょう。